

## 令和5年度第1回利用者懇談会議事録

令和5年度 第1回 生涯学習センター利用者懇談会
日時： 令和5年8月31日（木） 19時00分～21時00分
場所： 東久留米市立生涯学習センター 学習室1
出席者： 利用者懇談会委員 【学識経験者】2名 【利用者代表】3名 【指定管理者】施設長、設備管理責任者 【関係行政機関職員】生涯学習課長（生涯学習課係長帯同） 事務局 【指定管理者】副施設長 欠席者：なし 8名の委員の内8名が出席、過半数の出席にて会議を開催  開催の目的 指定管理者が管理運営を行う東久留米市立生涯学習センターの指定管理期間中の運営を適正かつ円滑に行うために、市民のご意見等を伺う場として利用者懇談会を設置する。
議題： (施設長) 「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」には「第3条 懇談会は、委員10人以内で構成する。」とあり、現在委員の方は合計8名。 本日は、8名中8名の委員にご出席いただき、「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」第6条に定める「過半数」に達していることをご報告する。 これまで同様当懇談会は原則として公開扱いとなり、事前に傍聴希望者へのご案内をHPに掲載している。傍聴希望者がいる場合は後ほど入室していただく。（→傍聴者なし） 今回の議事録については前回同様、後日委員の皆様にご確認いただいた後、センターHPで公開する。  それでは会を進めるにあたり、初めに本日用意した資料を確認させていただく。 〈配布資料〉 ◆ 次第 ◆ 資料1 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計 ◆ 資料2 令和4年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【実績報告】 ◆ 資料3 令和5年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計 ◆ 資料4 令和5年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】 ◆ 資料5 令和4年度/5年度 施設維持管理報告【実績並びに今後の予定】 ◆ 資料6 東久留米市立生涯学習センター利用者懇談会委員名簿 ◆ 資料7 令和5年度上期 生涯学習センター利用者アンケート集計結果 ◆ 資料8 令和4年度第2回利用者懇談会課題及び立案  1. 開会（進行役 施設長） それでは次第に沿って進めさせていただく。次第の1～4までの進行を私のほうで務めさせていただく。 2. 市担当者紹介（生涯学習課より自己紹介と挨拶） 3. 設備管理者、事務局紹介（設備管理責任者、副施設長より自己紹介と挨拶）  4. 会長挨拶 この会は内容が充実している中で、色々アイデアや想いをアットホームな雰囲気の中で言える空気が続いており、非常に貴重な場になっていると思う。4月からは名誉教授という立場で様々な大学で引き続き教育・研究を続けさせていただいている。大きな節目としては6月より東久留米市民となった。市内も、滝山のお祭りな

どに行くところもたちの同級生の成長を感じるとともに、お父様お母様たちと共にコロナ禍前の活気に戻ってきたことを実感でき大変嬉しく思う。本日の懇談会はよろしくお願ひします。

## 5. 報告（進行役 会長）

次第に沿って、令和 4 年度事業実績「運営・自主事業」に関して施設長より、「施設維持管理報告」を設備管理責任者に報告をお願いする。

### （施設長）

令和 4 年度は、急激な世界情勢の変化に伴う大幅な光熱費高騰という状況下だったが、市の物価高騰等緊急支援交付金制度のもと安定した運営を行うことができた。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、皆様にとって安全・安心な施設運営を行った。

### 「生涯学習の拠点として」

運営 3 期目として掲げている基本理念である「学び、つながり、活力あるまちの拠点へ」のもと、地域連携・協働をさらに推進し、市民の皆様にとって、生涯学習センターが生涯学習活動に取り組むきっかけとなり、個人の学習の成果が東久留米市の活力となる生涯学習の拠点としての機能を果たせるように努めた。また、SNS 強化による幅広い世代との交流の創造を目指し、Instagram を 8 月に新設し情報発信力強化に努めた。

### 「施設利用統計から」

集会学習室 1・2 を隔てる可動式パーテーションの老朽化による不具合により、集会学習室 1 の利用停止があったが、利用者数は対前年度 41,244 人増、コロナ禍前（2018 年度）対比では 71%（前年が 40%）と徐々に回復してきている。

### 「自主事業」

東日本大震災以降毎年実施しているチャリティイベント「まろにえ祭り」を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながらも、コロナ禍以前の規模に戻して開催した。久しぶりの従来規模のイベント開催ということもあり、参加者のモチベーションも高く、出店者・参加者はコロナ禍前とほぼ同数の 2,706 名となった。

### 「ホール事業」

様々なジャンルや世代を対象とした 8 公演を実施。前年度に発生したスプリンクラー故障のような大きな事故もなく安定して事業を運営することができた。ポピュラーミュージック、クラシック、落語、ミュージカル等の計 8 公演を感染防止対策徹底のもと開催し、市民の皆様よりご好評をいただくことができた。

### 「各種教室・講座」

小中学生を対象として放課後の時間帯に様々なジャンルを体験する「放課後講座」を月 1 回実施し、令和 4 年度も 2 名の市民講師にご参加いただいた。市民協働型事業としては、みんなで協力して避難所をつくる体験型講座「みんなで避難所体験！防災サバイバル」、のんびり地域を散策し地域の良さを再発見する講座「東久留米てくてくさんぽ」を提案、大人向け講座では毎年好評をいただいているスマホ教室や”おとなだって遊びたい！”おとな限定（高校生以上）の講座「おとなが遊ぶアート講座」を提案したりと幅広い層を対象とした講座を開催し、様々なジャンルの内容を楽しく体験していただいた。

## ●資料 1 令和 4 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

令和 4 年度の利用件数は 7,530 件（前年対比 103%）、利用人数 96,086 名（175%）という結果。コロナ禍前の 13 万人までには及ばなかったが徐々に利用は回復している。

## ●資料 2 令和 4 年度 東久留米市立生涯学習生涯学習センター事業一覧【実績報告】

前回の懇談会で未報告の部分のみ報告。

①みんなのクラシックコンサート：市民有志の会「まろにえコンサートクラブ」との協同で実施。前半は公募で集まった大学生～20代を中心とした新人演奏家 6 組による演奏、後半は東久留米演奏家協会メンバー 2 組による演奏をお届けし、市民のみなさにご好評いただいた。

②3月放課後講座：「ドーナツスクイーズをつくろう」を実施。

③サークル見学会：昨年の14団体から18団体と増えたが、参加者は昨年の14名か9名と減少。販促の仕方、情報の発信の仕方を見直していきたい。

(設備管理責任者)

●資料5 施設維持管理報告【修繕工事他実績】

令和5年3月から7月までの修繕工事他実績を説明。修繕を6件実施。

- ①消火栓ホース交換作業
- ②非常放送スピーカー交換作業
- ③誘導灯交換作業
- ④陶芸窯修理作業
- ⑤1階男子トイレ、車椅子用便房便器詰まり除去作業
- ⑥B1F 創作室シリンダー交換作業

**意見・感想**

①講座参加率についての感想（利用者代表）

コロナ前に見た時の特にこども向け講座の参加率が非常に上がっている。

センターも一生懸命やっていたいただいて、利用者の方のニーズに対応した講座が提供できている結果でありすごいことだと感じる。

②資料5（令和4年度/5年度 施設維持管理報告）について（利用者代表）

東久留米市は手芸や布バッグなど、まるにえ祭りでも出される団体がとても多いと思うが、消火栓ホースを使ったバッグが販売されているのはご存じか。市報などで消火栓ホースを廃棄するという事で消火栓ホースのリユースを希望される方、というように謳ったりするとリユースの意識醸成に役に立つのではと思う。消火栓のホースをつなぎ合わせたバッグを工業用ミシンで縫い合わせることが可能のようで、デザインも、汚れもそのまま使ってバッグに出来るという話を耳に挟んだことがある。そういった活動も進めたらどうかと思う。

(会長) ちなみにセンターでは交換したホースは廃棄しているのか。

→交換作業のため作業員の方が持っていき、その後がどうなっているのかまでは追えていない。

そこも気にしながら今後活用できるかを考えていきたい(施設長)

(会長) ホースに限らず、廃棄の時はリユースのことも気に留めると良い。

③男子トイレの汚物入れについて（利用者代表）

東久留米では男性の個室トイレでも汚物入れを設置しているのか。

→設置済み(施設長)

(会長)

次第に沿って、令和5年度事業計画について「運営・自主事業」に関して施設長より、ならびに「施設維持管理報告」を設備管理責任者に報告をお願いします。

(施設長)

●資料3 令和5年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

「月曜日利用者推移」

7月までの累計構成比は4.9%（昨年対比0.4%ダウン）。要因としては学習室1の閉鎖の影響や利用件数は減っていないが1団体あたりの活動人数が少なかったところだが、要因としてややイレギュラーな傾向がある為、長期的に進捗を見ていきたいと考えている。

曜日別累計構成比：一番高いのが日曜日 35%、土曜日 23%、水曜日 11%、火曜日 11%、金曜日 8%、木曜日 7%、月曜日が 5%。月曜日の構成比が一番低いのは月 1 回第 4 月曜日休館日であることが影響している。

### 「午後利用者推移」

令和 5 年度の 7 月までの午後利用合計実績は利用件数 1,143 件（昨年同時期 1,101 件、前年比 104%）、利用人数で 12,091 名（昨年同時期 10,292 名、前年比 117%）。引き続き回復傾向にある。

他の時間帯別の利用人数との比較：前年対比で午前中が 118%、夜間が 169%という推移。夜間利用はコロナ前の 2018 年度と比較すると 80%程度まで回復してきている。（子どもを対象とした運動教室や子ども食堂などの新規夜間活動団体の活動の影響）

### 「生涯学習センター利用者実績」

7 月末までの利用総数は、前年比で利用件数 107%、利用人数 120%。（2018 年対比で利用件数 89%、利用人数で 83%と回復傾向）。特にホール利用が大きく活性化し、利用者昨年対比で 127%。近隣施設が大規模改修工事のため利用者がこちらに流れてきていることもひとつの要因となっている。

本年は年間 11 万 5 千人に達する見込みで令和元年（2019 年）並みまで回復する見込み。 コロナが 5 類に移行した 5 月以降利用者の活動が活発になってきている。

来年度は 13 万人まで利用者を回復させたい。

### ●資料 4 令和 5 年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】

全館イベント 1 イベント、ホール公演 9 公演、生涯学習事業 9 講座、その他 2 事業を実施・予定している。

#### （全館イベント）

まろにえ祭り：参加者数 3,970 名と過去最高の参加者数となった。テーマ「減災～避けられない災害に備える」、写真展「フクシマ 東日本大震災から 12 年」にて震災の記憶を鮮明に提示、ロビーパフォーマンス「いきなり AED」AED 訓練を突発的に実施、「子供フェス」子ども～大人まで楽しめるワークショップ体験、集まった募金 130,011 円を内閣府政府窓口経由で被災地に寄付。

#### （ホール事業） 9 公演

実施済：①≪0 歳から入場可能♪≫まろにえびよびよコンサート：「手作り楽器を作ろうワークショップ」開催。子どもたちはプロの演奏に合わせて一緒に楽器演奏を楽しんだ。

実施予定：②ミュージカル「アルプスの少女ハイジ」③まろにえ寄席「三遊亭小遊三・柳家花緑二人会」④まろにえ★クリスマスコンサート⑤SALT&SUGER コンサート⑥クラシックピアノコンサート（調整中）⑦アウトリーチコンサート（企画中）⑧市民パフォーマンスコンテスト（仮題）⑨みんなのクラシックコンサート

#### （生涯学習事業） 9 講座

実施済：①放課後講座（毎月 1 回）4～7 月：「（4 月）新聞紙でかぶとをつくろう！」「（5 月）プラ板工作」「（6 月）オリジナルミサンガづくり」「（7 月）和太鼓ワークショップ」「（8 月）スライムをつくろう」②知って安心！防災出前講座：田無警察署、市消費者センター、市防災防犯課による身の回りに潜む危険について学ぶ講座③みんなて避難所体験！防災サバイバル：避難所について学び、チームごとに段ボールベッドとテントを組み立て、避難所を運営するシュミレーションゲーム“避難所ゲーム HUG（ハグ）”を行った④夏休み自由研究講座「押し葉でアートフレームづくり」「徹底比較！イモリとヤモリ」「ダンゴムシのすごいヒミツ」「化石のレプリカを作ろう」⑤ダブルダッチワークショップ：世界大会にも出場経験のあるプロチームを迎えたワークショップ、プロによるデモンストレーション有り。

実施予定：①放課後講座（毎月 1 回）9 月～3 月⑥東久留米てくてくさんぽ⑦スマホ体験講座⑧手作りクリスマス飾り講座⑨親子で星空を観察しよう！

#### （その他事業） 2 事業

実施中：①夏の学習室開放 実施予定：②まろにえサークル見学会

(施設管理責任者)

●資料 5-1 施設維持管理報告【令和 5 年度修繕工事他予定】

・令和 5 年度修繕工事実施済み 2 件、予定として 5 件を計画。

実施済：

- ①1 階男子トイレ、車椅子用便房便器詰まり除去作業
- ②B1F 創作室シリンダー交換作業

実施予定：

- ①温水洗浄便座修理作業
- ②自動ドア部品交換工事
- ③集会学習室 2 スクリーン更新作業
- ④変圧器並びに高圧進相コンデンサ絶縁油の微量 PCB 混入分析調査
- ⑤高圧コンデンサ更新工事

・修繕工事他計画（案）として 3 件の提案

- ①外灯照明器具更新工事
- ②エレベーター制御盤内電装品交換工事
- ③1F 西口避難口フロアヒンジ交換作業

**意見・感想**

① まろにえ祭り／ダブルダッチワークショップの参加者視点（生涯学習課長）

・まろにえ祭りはワークショップがかなり充実しており、購入するともう少し値の張るものをこども達と一緒に作ることができた。チャリティイベントとして運営側の声掛けの成果が非常に出ていたのではないかと感じた。また、ロビーパフォーマンス「いきなり AED」は、自分は学生時代にライフガード活動をしており訓練でも同じように練習中にだれか溺れる、というようなことをしていた。「いきなり AED」はシミュレーションという意味では効果が高いのではないかと感心した。

・ダブルダッチワークショップは、小学校 6 年生の息子と小学校 2 年生の娘で 2 日間参加させていただいた。生涯学習センターかと思うぐらいヒップホップ色があり、こども達の動きたくなるような意欲をかきたてる音楽と、それに合うような指導がされており、今風だと感じた。その後、娘がダンスを習いたいと言ってきた。娘にとっては非常に今まで体験したことのない貴重な体験が出来たと言ってきている。

②こどもたちの参加人数について（利用者代表）

放課後教室やイベントに参加するこどもたちの人数が増え、定着してきたと喜んでいて、定員を超えているのも多かった。

③まろにえ祭り内「いきなり AED」企画について（利用者代表）

全館イベントの際に、緊急に AED を扱う企画は凄く良かった。場所や時間を告知すると皆、こんなものかと緊張感が無いように感じてしまうが突発的にするという事は、本当の実際にはこうなるのだということを皆が実感したのではないかと感じた。前もってやりますよ、ではなくて突発的にやったということはいい企画だった。

④和室の椅子について（利用者代表）

以前要望を出した和室用の低めの椅子（パイプ椅子と座椅子の中間の高さ）手配の進捗はどうなったか。年齢が高くなってくると膝が痛い、座れない、正座できないといった方が増えてくる。各地域センターには和室には必ず 10 脚程度の座椅子があるがここには無い。どうにかしていただけないか。

→現状試験的に 3 脚置いている。利用者にご意見聴きながら数を増やしていきたいと思う。（J）

⑤講座との連携について（利用者代表）

放課後講座などでこどもたちが作った牛乳パック座椅子を和室に置いてみても良いのではないかと感じた。

→企画を検討していきたい（施設長）

**⑥まろにえ祭りでの飲食ブースについて（副会長）**

まろにえ祭りには知人が和太鼓ワークショップに参加した。消防車ブース、ワークショップなどとても楽しかったとのことだったが、飲食のブースが少なく食べるものに苦労したそう。ただコロナで飲食出展は控えていた影響があると思う。前は食べ物がとても多かったので、来年は変わるのを期待している。

→今後、飲食出展は徐々に増えていくと思うが、本年に限っては、まだコロナをふまえて出店を遠慮したのかもしれない。（施設長）

**⑦親子講座の父母の参加について（会長）**

皆さん仰る通り企画への参加人数は定着しつつある。企画によって父母の参加率での特色はあるのか。

過去に企画によっては男性の保護者が来た講座が多かったものもあったと記憶している。

→夏休み自由研究講座は親子対象講座もあったが、ほとんど保護者として来た方は女性だった。

内容によるようで、今年のクリスマス飾り講座（対象：親子）、避難所体験防災サバイバル講座（対象：どなたでも）は男性の方も保護者として参加されていた。（施設長）

**⑧企画の特色について（利用者代表）**

お父さんと参加できる企画が増えると良い。息子が大学生なのだが、この年になると男性として動くようになる。母親目線と父親目線では肉体労働のアルバイト1つとっても見方が違う。今は母親が中心になって子育てをする傾向が高いが、こどものころから父親との接点が多いとこどもの育ち方が違ってくるのではないか。

→企画の中にそういう観点を入れてもらえると良いと思う。（会長）

**⑨企画全体に関して（会長）**

企画が充実しており、参加人数にも反映されている。大人数で参加できるのがある一方で、少人数でこぢんまりと、むしろこぢんまりが規模感としていい企画もあるのではないか。そういう意味では講座ごとの適正な人数設定という視点からも見ていくと良い。全体的には非常に多様な企画が展開されていると思う。

**●資料7 令和5年度上期 生涯学習センター利用者アンケート集計結果**

（※2023年11月21日センターHP お知らせ欄に掲載）

インターネットでのアンケートは昨年度から開始し、今回で3回目。告知は窓口ほかHP、SNSでも行った。集計期間での利用団体170団体のうち回答は39団体だった。

**意見・感想****①立看板の設置場所の要望に対して（利用者代表）**

各団体が看板を立てるときに倒れないようにロープで引っ張ったり、固定したりする作業負担がある。ネジ式の器具をつけ、しっかり固定できるように是非作っていただきたい。

**②アンケートの集計に関して（利用者代表）**

アンケートは項目集計していると思うが、個人集計もしているか。1人ずつの回答も見ているのか。

→1人ずつの分析はしていない。ただ「大変不満」などの回答をした方がどこに不満を持っているのかというコメントは個人の履歴として追って見ている。（施設長）

（利用者代表）

ネット上のアンケートは顔が見えない分厳しくなりがち。一回トラブルあったことを数年間「不満」として維持する方もいると思う。職員の対応についての不満についても何を理由にそうなったのか分からないが、自由記述で上がってくると、カスタマーハラスメントということもありうるので、そういう場合においては公共の施設としてダメなものはダメとして線引きするべきである。要求に応じた対応をしていくとさらに大きなクレームに繋がってしまうこともある。私立の施設は利用者が施設のサービスを気にしない場合は使わなくて良いとはっきり言えるが、公の施設は私立と違いそれを言うと大事になってしまう。同じ利用者としては、過度な要求をする方いないと信じたいが、いたとしたら毅然な態度を取ってほしい。

## ③プロジェクターの要望（利用者代表）

移動式のスクリーン一体式プロジェクターがあると和室でも使える。

→検討する（施設長）

## 6. 自由討論

資料8 令和4年度第2回利用者懇談会課題及び立案について

## 背景・理由

令和4年度第2回利用者懇談会にて、利用者懇談会委員より令和4年度に実施した生涯学習センターの事業・講座内容について、幅広い世代への対応ができており充実度が上がったとの評価を頂くとともに、更なるセンターの役割・機能向上に向けて「生活困窮家庭への学習支援」についての必要性が議題に上がった。

生活困窮家庭には生活困窮に直面させすぎない、さりげないアプローチが重要であろう。そういう意味で、生涯学習センターは幅広い世代を対象とした施設であり、万人に開かれた学習施設である故の「さりげない」アプローチが可能な場である。施設内の一人になれる場所に彼らが必要とする情報が掲載されていることが、さりげないアプローチではないかと考え、「バリアフリートイレ」にて情報を掲載することを検討していきたい。具体的には「よりそいホットライン」（フリーダイヤル相談）という、1つのテーマに絞らず幅広いテーマを扱ったこのチラシをトイレに貼ってみている。

今回バリアフリートイレにて試験的に始めているが、情報発信はサービスの利用者だけでなく支援者の目にも触れることが非常に重要なため、バリアフリートイレだけでなく例えば館内のイベントチラシ置き場、ポスター設置場所などにも設置し、さりげなく交えながら提案していきたい。

これらの情報を発信するためには、我々は生涯学習課と連携しながら、各所管課が持つ情報を発信していきたいと考える。皆様のご意見を頂戴したい。このご意見を元に次回の懇談会にて実施した内容をご報告したい。（施設長）

## 意見・感想

利用者代表

- ① バリアフリーのトイレだけに貼るのは良くないと思う。皆さんの目に触れるところに置いていただいたほうが、それこそさりげなく見られる。今だといちいちバリアフリーのトイレに行かなくてはならない。
- ② 学校でこういったフリーダイヤル相談は配られている。私の周りにいる何人かの高校生等にここに電話をしてどういう風感じたかを聞いたことがある。フリーダイヤル相談に電話してくる子というのは、死んでしまいたいという気持ちを抱えていることが多く、顔を見られたくないし身分を知られたくないから電話してくる。しかし、電話相談することで継続して何かにつながったという子が本当に少ない。自分の思いを上手く話せない子には電話で話すのはかなり厳しい感じになってしまうと聞いたことがある。おそらく思春期の子や小学生の鬱などの子には、ここに至る一歩手前のところで止めるための場として、対面や悩みを言わない状態で接せる場所を案内してあげるのが一番いいのかと思っている。中学校などではアンケートに親から虐待を受けているというニュアンスのことを書く子供家庭支援センターから保護者には秘密で学校で面談をしている。ちょっとした性の悩みでも貧困の悩みでもその場所に行くことで、着ているものや様子から、普段こどもに接している担当者はその子たちの発するシグナルに絶対に気が付いてくれると思う。発信するチラシの中でも学習支援やこねっとさんなど、電話相談だけではなくリアルの場があるものと一緒にセットで情報発信してもらえると子どもたちは自分の状況に適したところを選べるのではないかなと思う。たまたま何件か電話したのだが全然伝わらなかったから途中で電話を切ってしまったというケースも聞いたりしているので、そのような場所の紹介を少しずつやっていただけるといいと思う。
- ③ テレビでヤングケアラーのことをやっていた。行政が何とかやってくれないとかわいそうだなと思った。

（会長より）

ヤングケアラーという単語自体がやっと周知されるようになってきているが、自治体のサポートも含めてまだまだこれから。まずは存在を発見するということから入らないといけないのだが、本人たちはヤン

グケアラーであるという自覚がないことがある。助けを求められない。だけど助けが欲しいという状況である。

#### 配布物の候補について

市民課内男女平等センターでヤングケアラーに関する若者向けのリーフレットを取り扱っている。担当者に相談者の人数を伺ったが少数でとどまっているとのことだったので、それだったら生涯学習センターで置いてみたらどうかとサンプルをいくつかもらってきたので手に取ってみたい。 (リーフレットサンプルを委員へ配布) この中で、センターでよりそいホットラインをピックアップした理由は、間口が広く、いろんな選択が出来るという観点からだった。今配布したリーフレットはデザインとして中身を開きたくなるような仕掛けがしてある。

その他、有名なポスターの横に支援QRを設置しておき、傍からはポスターを撮影しているように見えるが実は情報にアクセスできるようにしているといった方法もある。(副施設長)

#### (利用者代表) /リーフレットサンプルについて

- ・もらったというのがバレないようなデザインである。
- ・生理痛なども入っているから女の子は電話しやすい。みんなの悩みをカバーしている。
- ・よりそいホットラインまでいくとテーマが重たすぎる。
- ・友達にこれを見られたとしても、様々な悩みが書いてあるのでその友達が自分にもあてはまると感じることができる。
- ・誰もが持っていてもおかしくないフレーズが書いてあるものが良いのではないか。
- ・置くとしたら一か所にまとめてしまうと、取っているところを見られてしまうので分散して隣のチラシを見るふりをして目的のものを取れるようにしたりすると良いかと思う。

#### (会長)

- ・密室なので写メを撮っているか分からないということで、前はバリアフリートイレへの設置が良いのではという案が出たのだが、今日皆さんからご意見いただいたように沢山情報があるとさりげなく持っていけるのだが、ただそれだけがあると特別に持っていく感じになってしまう。例えばセンターの講座を実施する際にいろいろチラシがあるので、ついでに持ってこうというような感じで、実際にその中に支援のチラシがあるなど。皆さんおっしゃっているようにバリアフリートイレだけではなく、いろいろ置いてよいのだと思う。
- ・今話し合ってきたように悩んでいることを実際に誰かに相談することがその時にあるとしても、それ以外のところで、情報としてこういう時はこういう風に助けてもらったほうが良いということを知る機会があれば、いざというときに助けを求められることができるということが昔から言われており、例えばいのちの電話でも、何もなくても電話してみる、というのが一回でも体験としてかけてみるといざというときに電話しやすい。いのちの電話の研修をやってきたが、さりげない相談、いわゆる軽い相談もちゃんと受けましょうというのはいのちの電話の研修では絶対的に言うことである。そういった意味でいろいろなレベルの相談窓口案内をさりげなく置いてよいと思う。
- ・資料8の中で市を挙げて課が横断的に関わっていけるという部分を、生涯学習課が主導していくということにとっても意味合があると改めて感じている。  
なぜならちっちゃい赤ちゃんから高齢者まで、追うことができる所管なので、当然青少年課とか福祉いわゆる生活保護含めてさりげなくという意味においては生涯学習課が一番届けやすいポジションにいるのではないかと思う。あるいは生涯学習センターが中核的なセンターになるのではないか。積極的に情報発信をして頂き、つながりを作っていくことが大事だと思う。
- ・コロナ禍の状況の中ではSNSとか電話相談等が主な相談ツールとなり、対面ができなくなることがあったが、逆に相談ツールがすごく広がった。今ではSNSの専門相談員というのができている。いきなり対面だとつらいものがあるが、匿名で相談できることから入っていき、ちょっとあなたの名前をお聞きしていいですかということで対面に繋がる。そういう意味では、生涯学習センターには電話でも対面でもつな



ることができる多様な企画があり、それこそまろにえ祭りとがあるので、気軽に来れる環境がある。とても可能性を感じる。

(利用者代表)

- ・学校で配ったらどうなのか。特定の人に配ると分かってしまうので全員に配るなど。
- ・配るときに困っている子として配ってしまうと、こどもは心理的にストップかかってしまうと思う。配るときに大人が何とかがとても重要。

(会長)

どんなことでも相談していいんだよ、ということを絶対につけてあげないといけない。僕は違う私は違うっていう悩んでいる子であればあるほど、電話すると余計悩みが深まるんじゃないかと勘違いしている子も結構いる。

(利用者代表)

- ・TV特集でも、家では大変な環境だが、学校行ったらすごく明るくふるまっていると本人が言っている。本当に見つけにくいものだと感じる。

(会長)

支援者に対してのメッセージも必要と仰っていただいているのはとても大きな意味があり、当事者の方だけを想定しているのではなく支援者の方も手に取れるということがあるので。

これは今後の予定の中で企画することの中で念頭に置いて頂けるとよい、さらにこれを発展させるということで、ヤングケアラーのことも講座の中に、それこそ既に実施しているSNSとかスマホ支援講座等と同様に講座として入れてもいいと思う。

私がこの懇談会に入ったのは子育て支援の講師に呼ばれたのがきっかけだった。お母さんたちの会は小規模として活動していたがだんだんと身近な存在としての企画になっていった。こども家庭支援センターだとできないような、逆にハードルが低い中で、みんなで集まろうよという場所もあっても良いのではないかと思う。企画の中に1つぐらいさりげなく、実は支援者とか地域のネットワークの中で面倒見のいい人をもっと育てていきたいと思いますという企画もあっていいのではないかと思う。

(生涯学習課長)

生涯学習センターは福祉施設でないからこそ来やすいということ。重たく受け止めないで気軽に、というのがいいと思う。

エントリーモデルみたいな形があると良いと感じる。当然マストな業務ではないとは思うのだが、ただいろいろ広げるには、トライしていただくとありがたい。

(会長)

これだけ多様にいろいろなことができているので、逆に支援の企画が突出して目立つこともなく。こういうこともやっているのだとさりげなく支援の企画がしやすいのではないかと思う。

(生涯学習課長)

役所の中の新しい課題はどこが担当するのかというときに、実際にやるとなった際にとっても重たい課題になってしまっていることもある。

(会長)

・全体的なコンセプトにつながるのだと思うが、幸せを感じるということを目指すときに、みんなが笑顔で幸せに感じていることが我々の幸せなのだということ。ケアラーのこどもたちのも幸せになっていくということが実は我々の幸せなのだということコンセプトとして目指しているということが生涯学習としての理念としてあると思うと、ここでいろいろな幸せがはぐくまれているけれども、そのなかに苦労している人たちに対しての関りでの幸せをもっともっと持ってほしいというような、そういう発信の場になっていただけると良い。

・障害児のところは所管部署があるので、それはそれでやっていると思うが、ここにできるそういうコンセプトにおける位置づけもあるのではないかと思う。困っている人が福祉課に行くのではなく、ここにさりげなくきてみんなで何かするとか、できることもあるはず。生涯学習センターにはそういうミッションもあるのではないか。

(利用者代表)

気が付いたら来た、のようでいいのかもしれない。世の中昔だと驚くようなこともでてきているので、当事者からするとそんなに重たく受け止められても困るというものも増えてきている。

(副会長)

講座の中に入れるという話で、たとえば防災サバイバルのところ、その障害をもった人がきたらどう対応するかみたいなことがあると参加している人にも学びになり、考えるきっかけにもなる。話が通じないと伝わらないというのは避難所を直接運営してみて感じると思う。

(副施設長)

実際やったのは避難所運営ゲームの中でもハンディキャップをお持ちの方というくくりではなく、具体的に歩けない方、耳が聞こえない方、目が見えない方が来ました、どこに誘導しますかというカードを引いたとき、参加した子どもたちもそれぞれの方にどんな困りごとがあるのか真剣に考えてやっていた。当事者はいなくても想像する力はあると実感した。また去年は実際に車椅子に乗ってもらって歩けない方を避難所へどうやって避難させるのかという実践を行った。避難所だと様々な方が集まるので、引き続き取り組んでいきたい。

**7. 事務連絡** (副施設長)

次回は、令和 5 年度第 2 回利用者懇談会を 2 月頃に開きたいと考えている。詳細は直近になったらご連絡させていただく。

**8. 閉会** (会長)

委員の皆様のご協力により本日の予定を無事終了することが出来た。

これにて、令和 5 年度第 1 回利用者懇談会を散会とする。

以上